

女性には年齢差を気にせず、男性には年齢差を気にせず。女性には年齢差を気にせず、男性には年齢差を気にせず。女性には年齢差を気にせず、男性には年齢差を気にせず。

「今更な」の「更」は「更なる」という意味で、年齢を重ねることを指している。また、「更なる」という言葉は、年齢を重ねることで得られる経験や教訓を指している。年齢を重ねることは、人生の大切な経験であり、それによって得られる教訓は、人生を豊かにしてくれる。年齢を重ねることは、人生の大切な経験であり、それによって得られる教訓は、人生を豊かにしてくれる。

30代後半から40代前半にかけては、人生の重要な時期である。この時期には、キャリアアップや結婚などの重要な決断を下す必要がある。また、この時期には、健康や生活習慣についても注意を払う必要がある。この時期には、人生の重要な時期である。この時期には、キャリアアップや結婚などの重要な決断を下す必要がある。また、この時期には、健康や生活習慣についても注意を払う必要がある。

抱っこはしない

横田創

抱っこはしない

わたしを見つけて2

2022年2月25日 発行

- 著者 横田創
- 組版 中村圭佑
- 校正 矢木月葉
- 編集 竹田信弥
- 発行 双子のライオン堂

この冊子は無料で配布しています。またクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示4.0の下に提供しています。データでの公開もしていますので、詳しくは公式サイトよりご確認ください



※

なれていて、美衣子の手を握り、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

美衣子が去年の冬、散歩の途中で落としたSOU・SOUの手袋はみかん畑の下の小川の土手にいまでも引っかかっている。親指と人指し指だけわかれた、ちょっと変わった3本指の、したままスマホの操作ができるすぐれものだ。

小川にカワセミがいたのだ。急いで美衣子は写真を撮ろうとして、しまったま操作ができることを忘れていた。肘まである長い手袋を脱ぎ、あわてて左の脇の下に挟み込んだ。みかん農家のおじさんが渡した手作りの橋の上ですりりと落としました。

美衣子がみけこと呼んでいた野良猫が子供を産んでいた。4年くらい前の話だ。その発泡スチロールの箱はいまも崖になったみかん畑のトロツコの錆びたレールの下にある。それは美衣子も知っている。

4匹いた子猫は美衣子の気配がするだけで、来たとわかるだけでみいみ泣いた。それがどうにもかわいくて散歩の回数が増えた。朝だけではなく夕方もするようになった。美衣子が離乳食代わりに子猫にあげていたチュールの切れ端はみかん畑の落ち葉の吹きだまりの下で、意味が

色かオレンジか白。流行りの同色コーデという感じで気に入った。伊緒のほうから声を掛けたわけではない。確かに歳はとった。人生2度目の東京オリンピックがまもなく開催されるのだから当たり前だった。

それでも伊緒は気に入っていた。鏡の中の伊緒は鎌倉の山のほうで隠居している昭和の名女優みたいに上品な顔立ちをしていた。伊緒の目にはそう見えた。

歳をごまかすつもりはなかった。話の流れでなんとなくそうだった。他意はなかった。自分が思う自分を思った通りに話しただけだった。

仕事をなにしてるのかと聞くと「おかげさまで社長をさせていただけだ」と屋敷は言った。「おられます」のあたりで視線を外した。手を使わずにアイスコピーのグラスのふちで踊るストローを唇で追った。

名刺も出さずに社長を名乗る人間を伊緒は数え切れないほど見てきた。ひとりの例外もなく全員親の金で遊んでいるアホのぼんぼんだった。

美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。美衣子は、顔を赤らめ、涙を流して、押し入られた。

製本のしかた

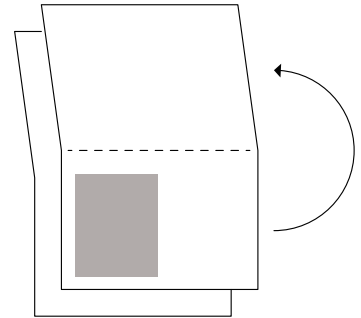
1.

プリンターで「**両面印刷**」を選択、
とじを「**長辺とじ**」に合わせます。



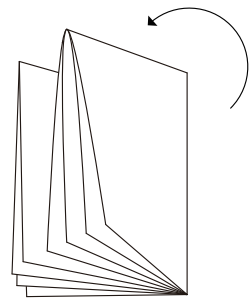
2.

表面（表紙タイトル側）を前にして、
印刷した順番に**重ねた後に、**
タテ半分に山折にします。



3.

表紙タイトルを左側にしたまま、
さらに**ヨコ半分に山折**にします。



4.

一度開いて**ヨコ長の見開き**にし、
上部をハサミで切って**完成**です。

